

高知県立高知西高等学校

令和3年度高知西高校国際シンポジウム開催!

Datta Shammi 先生 基調講演

【演題】

「探究は学びのエッセンス？」

～鳥の目、虫の目、魚の目、そしてもぐらの目!～

-未知の未来に必要な目- きみはどう身につける?」



基調講演は、Datta Shammi 氏をお招きし、50 分間のご講演をしていただきました。生徒たちは、一つの物事を多角的・多面的に見る大切さや、探究活動を通して得ることのできる新しい視点を知ることができました。また、未知の未来に向けて、どのように学ぶのかについて、深く考えることができました。

「Namaste!」の挨拶から見るものの考え方

「Namaste!」の挨拶はどこ言葉なのか? インドの言葉ではない!」また、「カレーはインドの料理ではない!」この事実に対して、その理由を生徒たちは各々が思いを巡らし、「どういうこと(意味)なのか?」考えました。歴史的なこと、文化的なことなど、多面的な視点からの回答が生徒の口から次々と出てきました。

先生は、この事実を考える活動を通して、「自分たちが普段「事実」と思っている知識が、本当に事実なのかを検証してみることの大切さ」について、生徒たちに考えてもらいたいということを伝えてくれました。

「主体的な学びの在り方」から見えるもの

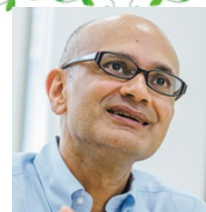


「俯瞰してものを見る目」、「広い視野でものを見る目」、「世の中の流れを見る目」、「見えないところ(予想外のところ)を切り開いていく目」が必要とされていることを生徒たちに伝えてくださいました。そのために必要な主体的な学びの在り方を、生徒と先生が一体となって作っていくことが必要ではないか?と投げかけられました。

また、学習内容についての、疑問点を自分たちで調べて、整理し、プレゼンしていく学びが、高校時代の Datta 先生にとって刺激的な授業であつたと語られました。

あつたと語られました。

「学校や大学は今要る知識を教えるより、10年後に必要な資質・能力習得の場である。」という言葉は、生徒にとっても、教員にとっても、新たな気づきとなる言葉となりました。



Datta Shammi 氏

岡山理科大学

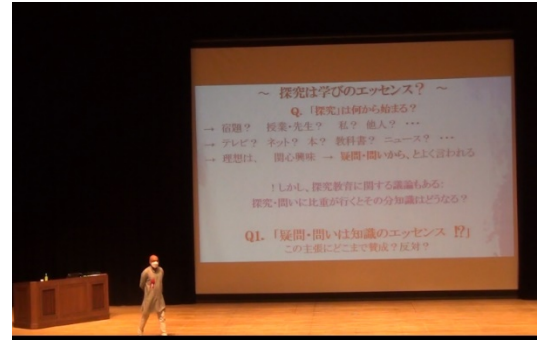
教育学部教授



探究は学びのエッセンス？



「疑問・問いは知識のエッセンス!？」この問いを考えていく中で、「疑問→知識→疑問→知識」というように、疑問が出てくると知識が必要になり、知識が増えると疑問が新たに生まれる。この繰り返し、学びのエッセンスになるだろうし、探究活動は、やはり学びを楽しくさせるものになりうるのではないか…？」ということを生徒たちは感じたようです。



[生徒の感想]



私は疑問が知識に繋がるという意見には賛成でした。どうしてそうなるのかを知りたいと思い自分で調べた知識は、無理やり学んだことよりも印象に残ると思います。

知識もとても大事ではあるが、興味関心を持ち、探究することは、自身のモチベーションも高まり、結果的に知識にも繋がるので、とても大切なことなのだと思います。

一番印象に残っていることは「疑問や問いは知識のエッセンス」という考えについて考えたことでごく自分の考えが深まり、考えるきっかけになりました。

疑問を持ちながら学んでいくことの大切さを学びました。ただ学ぶだけに比べ、疑問を持ちながら学ぶことで学んだ内容が理解しやすく、頭にも残りやすいという意見にとっても同感しました。

自分が当たり前と思っていることをもう一度考えさせられた。特に、普遍的な物事の捉え方は別の視点で考えると少数意見やその他の考え方を否定することに繋がるのかなと思った。

基調講演を聞いて印象に残ったことは、主体的に学ぶということです。物事をしている時に、それ自体が将来の役に立たないと感じても、それを学ぶ方法などが将来につながるの、そのことを常に考えて生活していくことが大事だと思いました。

疑問を持って自ら探求するということの大事さをタツタ教授の講演で学ぶことができました。今回の基調講演で学んだことはこれからの自分の学習をよりよくするためにとても有意義なものになったと思います。

物事を分析したり、全体から捉えたり、流れで見る、などの視点は、これから重要になってくる事だなと思いました。だからこれからのG探などの活動の時に分析したり、捉え方を変えたり、考えて視点を変えて行こうと思います。

今まで、私たちが当たり前だと認識していたことが、実は、世界で見ると違って、私たちの知っているはずの情報 genuinely 正しいことであるのかを疑問に思うきっかけとなりました。